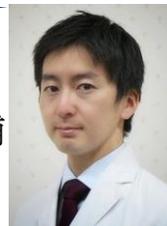


新理事長就任挨拶

医療法人青樹会 理事長 一之瀬 峻輔



この度令和2年9月1日をもちまして医療法人青樹会 一之瀬脳神経外科病院理事長に就任致しました一之瀬峻輔です。令和2年8月20日に逝去した一之瀬良樹前理事長の後任としてこの責任ある職務にあたることに非常に身が引き締まる思いです。挨拶にあたり、まずは一之瀬脳神経外科病院の創立者である父良樹の成し遂げた軌跡を振り返りたいと思います。

平成4年、脳卒中を中心とした疾患をすぐに検査・治療できる病院を目指して、父は一之瀬脳神経外科病院を開院しました。

中信地区唯一の脳神経外科専門病院として積極的に患者さんを受け入れ、精力的に手術を行い、術後早期のリハビリテーションを導入し、脳卒中の脅威に苦しむ患者さんやその家族が安心を得られる病院になろうと努めて参りました。そうして地域の信頼を確かなものとした後に、急性期治療や手術にとどまらない包括的な脳卒中ケアを実現させるべく、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーション、また、訪問看護ステーションを設立し、退院後の脳卒中患者さん家族の安心にも尽くして参りました。平成29年には住宅型有料老人ホームシニアメゾン エミレーツを開設し、さらに地域の方のニーズに合わせた医療・介護を提供できるよう事業を推進しました。

平成31年には回復期リハビリテーション病棟を新設し、それまで他院に依頼していた急性期以後の回復期リハビリを当院で行えるようにし、脳卒中の急性期・回復期から退院後のリハビリ・在宅支援に至るまでを、一貫して当院での医療を提供できるようになりました。

脳疾患以外の分野においても、MRIを活かした画像センターを立ち

上げ、整形外科や泌尿器科、産婦人科など他科医療機関が当院 MRI を利用し、正確な読影を基に迅速に診断できるようにすることで地域に貢献してきました。また乳がん検診を始めて若年女性の生命をも脅かす乳がんの早期発見・早期治療を呼びかけ、啓蒙活動にも取り組みました。

開院から 28 年間、青樹会憲章である「全ては患者さんと共に」、病院理念である「最良で感動のある医療を目指します」を信念として、父は全力で地域住民の方々の健康に尽くしてきました。

2 年前に闘病を始めてからも、複数回の手術や入院を経て徐々に体力は落ちていたものの、外来診察や病棟回診は可能な限り続けておりました。また病床にあってなお、患者さんの治療や病院の将来に提案を重ねておりました。その最後まで医師として患者さんのためであろうとした父を私は同じ医療人として、家族として尊敬しております。

父の遺志を継ぎ、今後も患者さんの健康を守り、家族の安心につながる病院を目指して全力を尽くして参りたいと思います。

今なお猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症の影響下で、医療を取り巻く現状はますます厳しいものとなることが予想されますが、当院の基本方針は変わりません。すなわち、流行状況を注視しながら感染予防の徹底を前提とした上で脳卒中救急対応を継続し、緊急手術や入院に備えます。また通所・訪問部門でも同様に対策を講じながら継続することでコロナ禍で満足に外出や身体活動を行えない利用者の方々を支えていきます。

前理事長と同じく情熱と信念を持って職務にありたいと思いますのでこれからもどうぞよろしくお願い致します。